



MEP Newsletter

ミャンマー国マラリア排除
モデル構築プロジェクト

2016/6/15

2016 年 3 月から新規プロジェクトとして開始しました。

特集

ミャンマー国 マラリア排除モデル構築 プロジェクト開始

JICA では 2005 年から 10 年間にわたり、主要感染症対策プロジェクトフェーズ 1・2 を展開し、プロジェクト対象地域においてマラリア死者数を 2005 年の 169 から 2015 年には 4 名まで大幅に減少させました。また、罹患数は 39,362 から 1,357 例へと激減し、マラリア制御から排除へ対策を移行する段階になっています。

ミャンマー国 保健セクターの開発政策と本事業の位置づけ

ミャンマー政府は、「マラリア対策戦略 5 年計画」において、殺虫剤処理蚊帳の配布箇所拡大による感染予防対策や患者の早期発見と診断、アルテシニン併用療法を基盤とした適切な治療による感染源の減少、それを支えるマネジメント能力強化、住民のエンパワメント等を主要戦略として盛り込み、国際機関やドナー間のパートナーシップ強化を図っています。次期 5 年計画(2016-20)では、マラリア排除を主要戦略として盛り込まれることが検討され、本事業は国家のマラリア対策をより上位のレベルで推進し、マラリア排除に向けたモデル構築・実証して将来的に全

国展開するための支援を実施することになっています。

保健セクターに対する日本国および JICA の援助方針と実績

これまで JICA では、主要感染症対策プロジェクトのマラリア分野においてコミュニティベースのマラリア対策モデルを構築し、普及させてきました。また、2008 年には、軍政の不透明さから世界基金が撤退し、JICA 以外のパートナーによる支援がない状況下において、無償資金協力を通してマラリア治療薬や迅速



診断キット等の整備を支援。更に、2014 年度には無償資金協力「マラリア対策機材整備計画」が実施され、マラリアの排除モデル構築のための環境が整備されてきています。これら一連の活動から、同国において JICA はマラリア対策における最重要パートナーとして認識されています。



笑顔でマラリアプロジェクト幕開け

2016 年 3 月灼熱のミャンマーにマラリア専門家である中村専門家、疫学者の神田専門家、川井業務調整員がミャンマーに到着。長年、JICA 主要感染症対策プロジェクトでマラリア対策のスタッフとして力を注いでいた Daw Hla Yin Kyaw と、若手スタッフの U Zaw Zaw Oo の 5 人体制でプロジェクト開始です。(2 ページ)



プロジェクトの展望

長年、ミャンマーにおいてマラリア対策に貢献してきた中村チーフアドバイザーより、今後の展望をインタビューしました。(2 ページ)

事業概要

事業目的：ミャンマー国内において、マラリア排除に向けた活動モデルを構築し、その有効性を実証することにより、国家マラリア対策プログラムの機能強化を図り、実証されたモデルの全国的な導入に寄与すること。

プロジェクトサイト：バゴー地域（約 39.4 千 km²、裨益人口約 4.8 百万人）及び周辺のタウンシップ。

本事業の受益者：昆虫媒介性疾患対策係職員、地方保健センターに勤務する保健師等の基礎保健スタッフ及び地域保健ボランティア約 600 人。

協力期間：2016 年 3 月から 4 年間。

プロジェクトの展望

プロジェクトが描くマラリア排除モデル構築プロジェクトとは？

これまで 30 年以上に渡りマラリア対策を行ってきています。ミャンマーでの活動は 10 年を超えました。ミャンマーを含む大陸部アジアのマラリアは主要媒介蚊の分布特性から森林関連マラリアと呼ばれています。ミャンマーのマラリア流行のほとんどは、居住する村落ではなくそれよりも奥の植林、焼き畑、開発プロジェクト等の事業地で起こっており、このため感染者の多くが成人男性に偏っています。これにより、ミャンマーのマラリア感染は流行地内の経

済活動と密接に関係していることが分かりました。マラリア排除のためには、これまで行われてきた患者の発見・治療に加えて、実際に感染が起こっている場所への集中した介入が必要です。そのターゲットの多くは村落よりも奥にあります。マラリア対策は長年、公衆衛生の枠組みでのマラリア対策を行っており、その対象は村落であり、事業地への介入といった労働衛生のアプローチが行われていないことが今後の課題です。このためには、パラダイムの転換が不可欠です。このプロジェクトを通し、この大きな課題を CP と共に乗り越えていきます。



スタッフ紹介

神田専門家

大学を辞めて JICA 本部にきたのが 2 年前。プロジェクト開始のために幾度となく出張したミャンマー、とうとう現場の専門家として赴任となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

川井業務調整員

看護師/助産師。神奈川県藤沢市出身。カレン人の夫と 3 人の子ども達とやってきました。2004 年に国境なき医師団でミャンマーに来てからミャンマーが第 2 の故郷になりました。よろしくお願いします！

Daw Hla Yin Kyawt

長年マラリア対策に関わっています。ミャンマーからマラリアを排除することは、大きな挑戦です。私は何事にもチャレンジしていく事が好きで、このプロジェクトに携われて嬉しいです。

U Zaw Zaw Oo

27 歳独身です。ヤンゴンの実家に住んでいます。6 人家族です。大学では商業を専攻していました。JICA マラリアプロジェクトのスタッフとして頑張っています！

長期専門家 3 名と現地職員 2 名で活動を展開していきます！

3-6 月の活動

<3 月>

- Bago West Partner Coordination Meeting, Bago (3/27-29)

<4 月>

- マラリア調査/CHW モニタリング会議 Pauk Khaung Tsp.他 (4/24-29)

<5 月>

- 表敬訪問 DG 表敬、ネピド (5/3-5)
- CHW モニタリング会議 Taungoo Tsp.他 (5/8-17)
- アジアパシフィック・マラリア・ウィークに中村専門家が招聘され、パネルディスカッション参加タイ バンコク (5/9-14)

↓ 写真参照

- VHV ワークショップ ネピド (5/18-20)
- CHW モニタリング会議 Pyay Tsp.他 (5/23-28)

<6 月>

- 事務所工事開始 (6/8-22)
- CHW モニタリング会議 Tharyarwaddy Tsp.他 (6/6-12)
- CHW モニタリング会議 Taungoo Tsp.他 (6/14-21)
- Entomological Survey (6/16)
- JCC 調整会議 (6/23-24)
- Annual Review Meeting ネピド (6/25-27)
- CHW モニタリング会議 Padaung Tsp.他 (6/27-29)

表紙説明：熱帯マラリア原虫（右上）とマラリア媒介蚊ハマダラカ（左下）。フロントラインで活躍するミャンマー保健スタッフと山奥のカレン族住民

MEP: Malaria Elimination Project
(プロジェクトの通称)

文責：川井



さらに詳しくは

Office:
Malaria Control Office
Compound, Corner of Bayint Naung St, & BPI St, West Gyogone, Insein Township, Yangon, Myanmar
E-mail:
min.rieko@gmail.com
(担当：川井)